

# 村民から寄せられたエッセイをご紹介します

## 【地域社会の変化とその生き方】

椎葉義市

時の流れ、それは何人といえども止めることはできないものであり、暮らしてもその時代と共に変わっていくものである。

私共の祖先はこの山で生き続け、この故郷を守り育てた姿を忘れることなく、同じように守り育てることは子孫としての責務である。

しかしながら、近年の地域社会は、その方向を大きく変えており、しかも拡大しつつあることに注意すべきである。何故この様に変化してきたのか。その原因は何か冷静に考えてみる必要がある。

まず第一に少子化である。若い男女が姿を消し子どもを見ることが珍しい時代になり、学校を調べてみると1校あたり児童数が20人〜30人くらいで閉校が続出している。今やこれは町村の学校共通の問題になっている。その背景は何なのか。それは出生数の激減と若い男女が職を求めて大都市に転出しているにある。この傾向が全く是正されていないことに問題があると考える。

第二に未婚化や晩婚化、子どもは1人か2人で裕福な生活がしたいという社会的意識の変化もあると考える。

併せて高齢化で高齢者が毎年増え続け、結果的に人口減少につながっ

ているようである。

先日、ある新聞で民間有識者でつくる人口戦略会議で、二〇五〇年までに全国で七四四市町村が自然消滅の可能性があると報告している。これは地域の実態を分析・検討の結果ではあるが、現状から推移するならば案外近い数字ではないかと思われる。

国は先に全国的な地方創生事業を展開したが、見るべき効果はないと考えられている。市町村の自然消滅は何としても止めなければならぬ。その具体的な対策を検討すべきであり、地方ひいては国全体で考える問題であろう。

この様な地域実態の中、今後の生活の在り方を考える時、これからも更に集落の人口が減少し、空き家が増えてくるので寂しい環境になっていくが、先づ集落は1家族という考え方が必要で、常に会話のキャッチボールを続け、すべての面で助け合い・支え合いを忘れてはならない。特に農産の作業も手伝いに行き、また手伝いを受けることで過労とならないよう留意すべきである。

これからも人口減少は続くとも、残りたる者が全ての面で力を結集することで故郷の灯を消さないことを願って止まない。